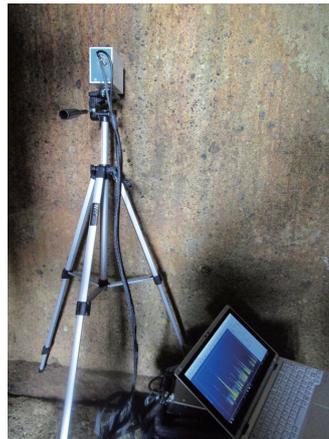


屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究(ホ04)

目的 屋外に所在する石造・木質文化財を対象に、覆屋の機能・遺構の露出展示に関する課題として、周辺環境等の劣化要因の究明及び修復材料・技術に関する研究を行う。また、石塔など石造文化財の災害事例及び災害対策に関する基礎的調査を行う。また、現在一時保管場所での長期的な保管を余儀なくされている被災文化財に関して、その保存・修復方法に関する研究を進める。

成果 屋外に位置する各種の文化財の劣化状況、保存環境、保存対策について、以下の通り調査研究を進めた。

1. 和歌山県指定史跡・一遍上人名号碑建立之地において江戸時代に行われた、地震で被災した石碑の修復について解明した。
2. 熊本地震で被災した古墳や、豪雨災害で被災した山都町の通潤橋など、被災文化財について、適切な修復方針の策定に寄与した。
3. 平野塚穴山古墳や南下古墳群などの古墳を調査し、壁面に汚れが沈着した原因について解明を進めている。
4. 臼杵市の風連鍾乳洞、南城市の玉泉洞、由良町の戸津井鍾乳洞など、各地の鍾乳洞で起きている、「照明をLEDに替えたら緑色生物が目立つようになった」という問題について、照度や照明の波長特性、二酸化炭素濃度などの調査を行い、緑色生物が洞窟内で繁茂しやすい条件について特定を進めている。



平野塚穴山古墳における沈着物の調査

- 論文**・朽津信明ほか：「新宮市万歳の一遍上人名号碑の補修史に関する三次元計測に基づく検討」『保存科学』59 pp.23-34 20.3
- ・「資料保存施設としての経塚の保存科学的評価」『保存科学』59 pp.35-50 20.3
 - ・朽津信明ほか：「新宮市万歳の一遍上人名号碑と江戸時代に行われたその補修について」日本文化財科学会第36回大会 19.6.1
- 発表**・朽津信明ほか：「天草市アンモナイト館における緑色生物の制御」文化財保存修復学会第41回大会 19.6.23
- ・朽津信明ほか：「過去の写真と現状の三次元計測に基づく荒島石の侵蝕速度の検証」日本応用地質学会2019年度研究発表会 19.10.24-25

研究組織 ○朽津信明、柳沼由可子(以上、保存科学研究センター)、前川佳文(文化遺産国際協力センター)